

<p>プロジェクト名称</p>	<p>新・神立駅チャレンジショップ</p>
<p>現状(問題点,背景)</p>	<p>神立は土浦市の北部に位置し、工業団地が立地していることから土浦市の工業の拠点とも言える。また、神立周辺の商店や企業は「神立商工振興会」に所属しており、3年前に若返りを図って多くのメンバーを代替わりさせている。若返ったメンバーは「神立から！元気発信!!」をスローガンに掲げ、神立のハザードマップを兼ね備えた、神立の魅力を発信する冊子「神立手帖」を発行したり、神立の歌を作ったり、神立手帖をホームページ化したり、独自のイベントを多々開催するなど地域活性化のために新しい取り組みを行ってきた。しかし神立駅周辺は商店街も含めて閑散としており、街全体も活気があるとは言い難い。そして現在、神立駅周辺の土地区画整理事業や神立駅の再建が予定されている。神立商工振興会の会長の君山様にヒアリングを行ったところ、「イベントをするだけでなくイベントに来てくれた人をどうやって次に繋げるかが大切だ」と仰っていた。</p>
<p>目的・趣旨</p>	<p>現在の神立駅は閑散としており振興会の方々も神立に活気をもたらそうとしているが、実現できていない状況である。新駅舎や土地区画整理により神立駅周辺は変わるが、今のままでは活気は生まれるとは考え難い。しかし、神立商工振興会の方々は様々な工夫を凝らし、地域活性化事業に取り組んでいる。そこで、神立商工振興会の方針ややり方はそのまま、新しい提案をすることで神立を活性化させる。</p>
<p>内容</p>	<p>新神立駅に広場建設が予定されている。その広場に神立マップを置き、チャレンジショップを展開し、イベントを行うことで、集客を狙う。また、イベントの際にクーポン等を配布することで「また神立に来たい」と思わせる仕組みをつくる。</p> <div data-bbox="528 1182 1129 1641" data-label="Image"> </div> <p>◆新神立駅チャレンジショップ計画</p> <p>神立駅舎を橋上化した自由通路を設けるにあたって、駅舎内または駅の外に「チャレンジショップ」を設けることを提案する。神立商工振興会店や経営の仕方について意見を出し、アドバイスする。</p> <p>◎具体的な手段</p> <p>チャレンジショップを3区画設け、互いに売上を競わせる。売上が良ければより長く出店し続けることができることとする。また、3区画の店舗の店長と神立商工振興会の方々が集まり、それぞれの店舗について意見を出し合う意見交換会を開催する。それによって客観的に見た自分の店の長所、短所が分かり、今後</p>

自分の店を持つときや神立駅前の活気にも繋がる。また、季節ごとに季節に合わせた物作り体験教室や地域の人やサークルによるフリーマーケットなどができる空間とする。

※チャレンジショップとは…

チャレンジショップとはもともと商店街などの空き店舗対策に行われているものであり、期間を決めて安い料金を店舗を借り、店舗を運営することができる、という制度である。店舗を借りる側としては、低いコストで自分の店が出せる、経営のノウハウを学べる(地域によっては行政が指導している場合もある)、経験が積める、などの様々なメリットがある。

以前、土浦駅周辺でチャレンジショップを行ったが、成功とは言えなかったという事例がある。しかし、土浦駅周辺で行っていたチャレンジショップは土浦駅から少し離れており、神立駅前広場に比べると立地条件が悪かった。また、常磐線は 2015 年に東京駅に乗り入れすることが決まっているので、現在と比べて常磐線利用者が増えることが見込まれる。また、神立商工振興会が全面的にサポートしてくれるので、より地域に根ざしたショップを運営することができると思われる。

◎参考事例

鳥取県鳥取市は昭和 60 年から平成 14 年の 17 年間で小売業年間販売額が 34%減少しており、商店街の空き店舗率は 6.8%、高齢化率は 27.9%となっている。

平成 12 年に鳥取商工会議所がタウンマネージメント機関に認定され、3 つのチャレンジショップのうち 1 つを、残りの 2 つは地元の商店街振興組合がそれぞれ運営している。

このチャレンジショップ出店者の 6 割以上が独立して新規開業に繋がっている。

将来目標	神立地区、特に神立駅周辺に活気をもたらすことを将来目標とする。
期間	第一行程:チャレンジショップ計画の詰め、支援内容作成 平成 26 年～ 第二行程:チャレンジショップ開店、商店の支援 平成 31 年度(駅完成後)～
場所	神立駅及びその周辺の地域
対象者	神立の住民、及び土浦市内の人々(チャレンジショップ)
運営主体	土浦市、及び神立商工振興会
運営方法	金銭面は土浦市の財源から支援する。 神立商工振興会はチャレンジショップを運営している人に対して経営のアドバイスなど 実質的な運営面をサポートする(あくまで運営するのはチャレンジショップ経営者である)。
イニシャルコスト	店舗準備費用、初期広告費用
資金源	市予算
ランニングコスト	光熱費(運営側負担が多い)、家賃、改装費
資金源	市予算、及び店舗を借りる人
今後の課題	チャレンジショップは店を出す人がいてこそ成り立つものであるため、地域の人々の考えや意見を聴くことが重要であると思われる。